

# スポーツ用自転車の 取り扱いには注意が必要です

スポーツ用自転車では、調整が不完全なまま使用したり転倒させると部品が破損し、走行に支障をきたす場合があります。交通手段を主目的とした自転車とは異なった注意点があることに留意しましょう。

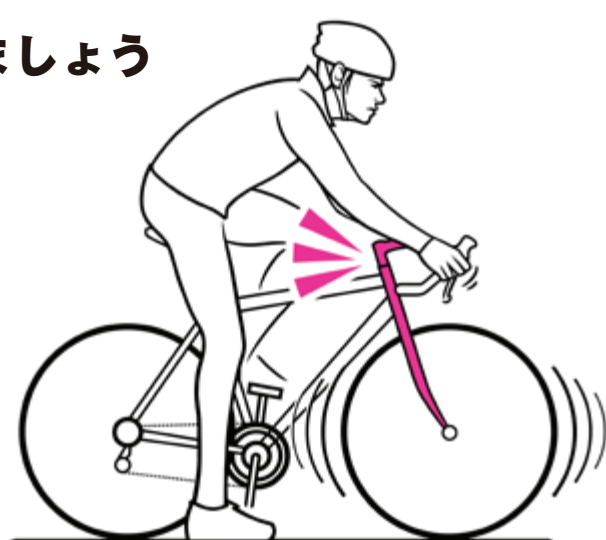
(独法)国民生活センターのPIO-NETに2010年度以降に寄せられているスポーツ用自転車に関連すると考えられる相談のうち、スポーツ用自転車に特有な構造や取扱方法に起因すると推定される事例を推定される原因箇所ごとに分類したところ、前ホーク、サドル、ディレーラハンガー、クイックリリースハブが不具合の原因と推定される事例が比較的多くみられました。

## 1 前ホークは正しい手順で固定し、 定期的にガタつきや緩みがないことを確認しましょう

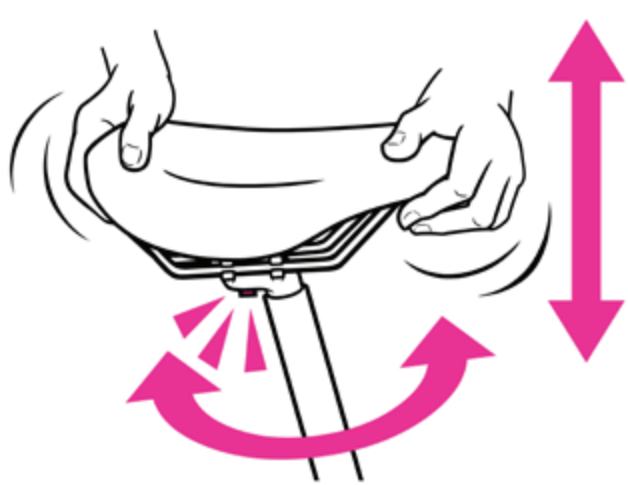
近年のスポーツ用自転車では主流の構造のものでは、ハンドルステムと前ホークを誤った手順で固定すると軸受け部にガタつきが生じることがあります。この状態で実走行を想定したテストを実施したところ、前ホークや軸受け部のベアリングが破損することがありました。

走行中に、これらの部品が破損すると乗員が路上に投げ出されたり、ハンドル操作に支障をきたすことが考えられ非常に危険です。前ホークは正しい手順で固定しましょう。

また、前ホークとハンドルの構造に関わらず、ハンドルステムを固定するボルトの締め付けが弱いとハンドル操作が効かなくなる場合がありますので、乗車する前には、前車輪を両足で挟み、ハンドルを持って左右に動かしたり、前ブレーキを握ったまま前後に動かしたりしてガタつきや緩みがないことを確認しましょう。



## 2 サドルは正しく固定し、 定期的に緩みがないことを確認しましょう



スポーツ用自転車のサドルとシートポストの多くは、ボルト1本または2本で固定されています。

サドルを固定するボルトの締め付けが不十分な状態で使用し続けることを想定したテストを行ったところ、サドルの固定が緩んで動いてしまうものがありました。走行中にサドルの固定が緩み、上下角度がずれた場合、乗員はそれに対応できず転倒することが考えられ危険です。サドルを固定するボルトの締め付けに問題はないか、定期的に確認しましょう。

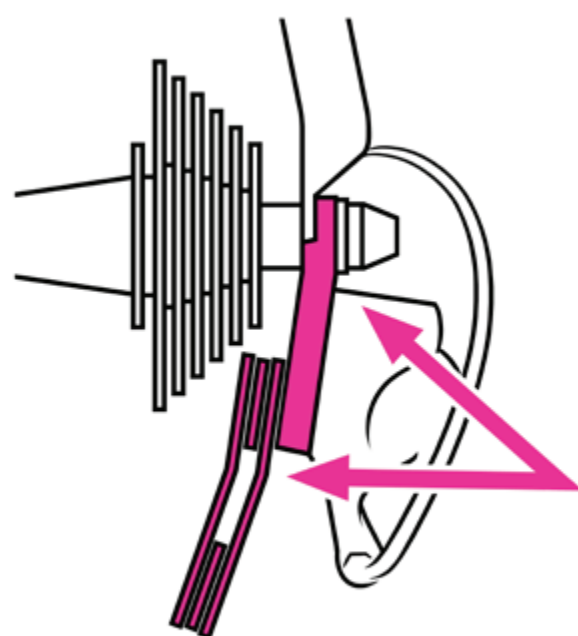
## 3 ディレーラハンガーの曲がりに注意しましょう

近年のスポーツ用自転車では、ディレーラハンガーを介してリヤディレーラが取り付けられることが多くなっています。

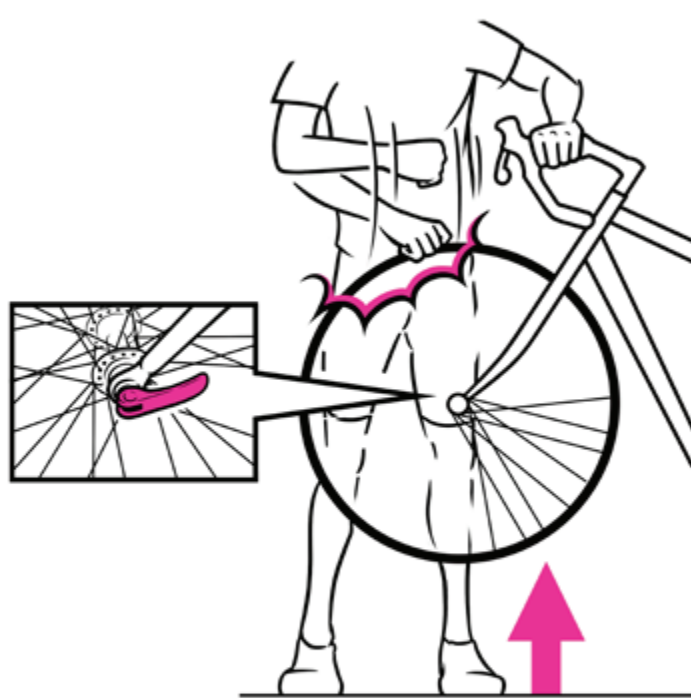
ディレーラハンガーは通常走行では加わらないような方向・大きさの負荷がリヤディレーラに加わった場合に、フレーム本体に損傷が及ばないようにするため比較的可変形しやすく作られており、変形した場合は比較的安価に交換修理することができます。

転倒などによってディレーラハンガーが曲がった状態のままリヤディレーラをローギヤ側へ変速操作するテストを実施したところ、リヤディレーラの内側と後車輪のスポークが接触したり、リヤディレーラが後車輪に巻き込まれることがありました。

本格的な走行をする前には低速走行をして一通りの変速操作を試して、リヤディレーラが後車輪に接触しないか確認をしましょう。特にディレーラガードを備えていないものでは、横倒しにするなどしてディレーラハンガーに負荷を与えないよう、取り扱い時に注意しましょう。



## 4 クイックリリースハブは正しく固定し、 乗車前には緩みがないことを確認しましょう。



スポーツ用自転車の多くは、フレームからの車輪の着脱を工具を使用しないで行うことができるクイックリリースハブという機構を採用しています。

これは調整ナットを適切に締め付けた後に、クイックリリースレバーを閉じることで車輪を固定します。調整ナットを締め付けるだけ、あるいはクイックリリースレバーを閉じるだけでは車輪を固定できません。

前ホークには、正常に固定された前車輪がクイックリリースレバーを解放しただけでは直ちに脱落しないよう爪が設けられています。しかし、正しく固定しないで走行すると、やがて外れて車輪が脱落するおそれがありますので、乗車前には車体を持ち上げ、車輪を上から強くたたいて、車輪がズレたり外れたりしないことを確認しましょう。

乗車前には、これらの部位についてよく点検しましょう。